

■地域名 高森町吉田地区

■特徴的な被害対策 住民、関係機関による防除技術及び先進技術の実証

1 地域の概要

集落戸数	うち農家	加害鳥獣	被害農作物等	備考

2 実施した被害対策の内容

区 分		実施に当たって工夫等したポイント
これまでの経過		<ul style="list-style-type: none"> 高森町吉田小沼地籍は、下伊那地域における大規模遊休荒廃地対策モデル地区として平成19年度から、地元住民・県・町・農機メーカー関係者が協同して遊休荒廃地解消に取り組み、そば及び大豆の作付けを行ったが、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザルによる踏み荒らし、食害等による甚大な被害を被った。 そこで、鳥獣害防止総合対策事業のソフト事業を活用して、防護柵のモデル圃場とすることにより、被害を防止するとともに、他地域のモデルとすることを目指した。
被害対策	生息環境対策	緩衝帯整備 (H19) 上部の森林については補助事業による委託、周辺の藪については住民、町、県等による自力施行により実施。
	防除対策	防護柵のモデル圃場 (H21) <ul style="list-style-type: none"> 事前に各メーカーの現地視察を実施し、協議、調整の上、設置場所を決定。 山際に3種類の電気柵+恒久柵を設置し、各圃場を囲むように4種類の電気柵を設置。 町、町有害鳥獣対策協議会、野生鳥獣被害対策チームが共催で、モデル圃場を会場に管内市町村担当者、農業者等への研修会を実施。
効果	被害状況	圃場の周辺にまではイノシシ、サル、シカが来た形跡があったが、作物の被害はほぼなかった。
	その他特記事項	高森町では、当地区のみでなく他の地区でも地域住民が中心となり、集落ぐるみで野生鳥獣対策に取り組もうとする意識が根付いてきている。
農家の方からのコメント		実際に圃場に柵を設置するという形で、何種類かの恒久柵、電気柵を見比べられたのは非常に参考になった。

3 これからの課題

失敗した事柄	
これからの課題	これまでは、圃場周辺の草刈り等、行政等の協力が大きい面があったが、今後は地区の住民の力で維持管理、環境整備等を行うための取り組みも必要。

4 問合せ先

飯伊野生鳥獣被害対策チーム：下伊那地方事務所農政課 電話 0265-53-0413
" 林務課 0265-53-0423



防護柵各メーカーによる現地視察



防護柵各メーカーの説明を受けながら設置



モデル圃場を利用した研修会



同 前

平成21年度 鳥獣害防止総合対策事業

防護柵実証試験地 案内図

